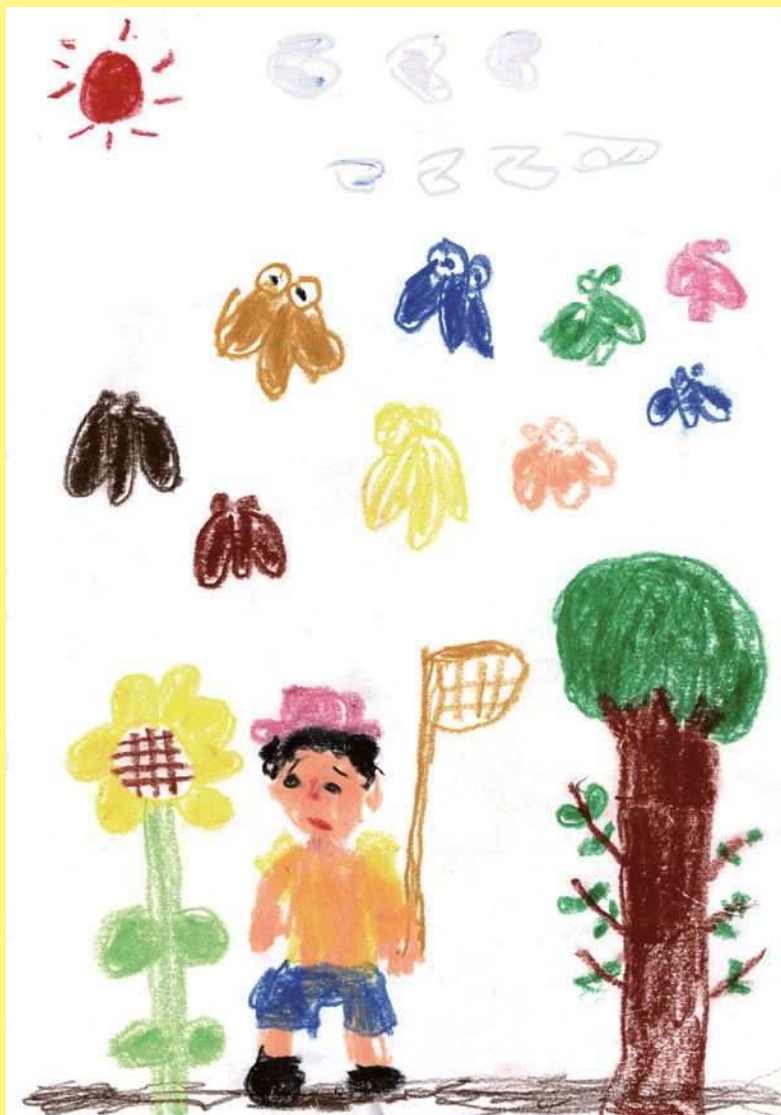




ゆたか福祉会キャラクター  
ゆたかめくとみらいちゃん



# 障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「夏のセミ取り」  
わかばホーム  
中野 雅也さん  
※紹介が10ページ  
にあります。

## CONTENTS

- ▶ 新型コロナウイルス禍の中で思う② ..... P2～3
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の発生を受けて② ..... P4

2020年8月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3  
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・  
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ

# 新型コロナウイルス禍に思う②

時代と社会の転換点を

新しい協同で

地域と協同の研究センター専務理事 / コープあいち理事長スタッフ

ゆたか福祉会理事 向井忍



向井理事

「新型コロナウイルス」は初めての経験でした。コープあいちも全国の生協

も、この期間は、組合員の集まる行事や会場の使用をストップしました。学校の休校や外出自粛・休業要請が続く中で、在宅生活での食品や生活用品の需要が増加し、組合員からの注文商品は急増し、生協への「加入（希望）」も増えました。しかし、商品の欠品だけでなく、配達のために商品をセツトする物流センターのキャパシティを超えたため、注文いただいた商品を、計画的に「欠品」と案内せざるをえなくなりました。全国の生協では、新型コロナウイルスでストップした組合員の活動を徐々に再開するにあたり、人と人が直接会えない環境の中で、どのようにしたらいいのか、ふりかえりや研修セミナーを開いているところ です。

「新型コロナウイルス」で起こったことを列挙してみると、①「身の回りの生活用品が不足する」、②「消費と生産が分断される」、③「健康や命に関わる社会不安に陥る」、④「生活基盤が崩される」、などが一度に起きています。「新型コロナウイルス」は初めてですが、一つひとつは実は過去にも経験があります。①「生活用品の不足」。これは1970年代のオイルショックで経験しました。灯油やおむつが不足しました。この時は、当時の班の代表が集まって限りある灯油などをどのように分けるかを話し合い、「幼児や高齢者のいる世帯を優先する」ことを決めました。この経験から、組合員が参加して話し合う場としての「運営委員会」が各地に広がりました。②「生産と消費の分断」。これに近いのが1990年代始めの冷夏による「コメ不足」です。国産米が不足し、農家から直接にお米を購入できる消費者は、当時お米の流通制度（食糧制度）

に依っていた生協に対して厳しい意見をよせました。この時は、組合員代表と農協の米生産者の代表が「お米対策会議」を設けてどうしたらいいか話し合い、新設された「特別表示米制度」で生産者・産地がわかり、直接契約できる仕組みをつくりました。これは愛知の生協と農協の協同組合間協同の出発点になっています。③「健康や命に関わる不安」。これは2000年代後半に起きた「冷凍餃子事件」が典型でした。中国の製造工場で意図的に農薬が混入された事件であったことは後日判明しましたが、当時のめいきん生協では、臨時の総代交流会を開催して組合員代表に経過を報告しました。その場での厳しい意見と真剣な話し合いを通して「地産地消（愛知を食べよう、日本の食をたいせつに）」を重視する方針を確認しました。④「一度に生活基盤が崩される」。その典型は災害です。2010年代初めの東日本大震災で



は、組合員から緊急支援として家庭のタオルとメッセージが20万枚も寄せられました。このタオルは、岩手県気仙仙地域の方々の手をおして、メッセージとともに被災された方に直接届けられました。このつながりは今もかたちを変えて継続しています。振り返つてみると、生活協同組合が自らの力を超えた社会の大きな「危機」に直面したとき、それは「商品や事業の危機」として現われましたが、危機を乗り越える力はずねに「生協組合員の参加（話し合い）」にありました。これに比べると、新型コロナウイルスは「個人の萎縮」と「社会活動の分断」によって、上記の①から④まで一度に引き起こしました。生協においては「事業をどう維持するか」に集中せざるを得なくなり「組合員の参加」はストップしてしまいました。感染防止し一人ひとりの命を守るために、また事業をおした組合員の期待に応えるため、やむを得ない判断でしたが、私は本当にそれで良かったのか真剣にふりかえる必要があると考えています。

なぜなら「新型コロナウイルス」下でも、ていねいに地域の様子を伺うと、実は人と人の「協同」は継続していたからです。(1) 4月には、「マスク」の材料をポストを通して受け取り、手分けして住民が仕上げた地域もあります。(2)

5月には、入荷した「マスク」を確実に、予約した医療従事者に渡せるように、就業時間を超えて待機した店舗職員がいます。(3) 組合員から配達の出された声には、オイルショック当時の話し合いに相当する提案が込められていました。「一度も届いてない組合員で抽選しては?」「小分けした単位にして、価格が高くなっても、その差額は医療施設に寄付しては?」「高齢者や障がい者の世帯を優先しては?」「障がい者プロジェクトで作っているマスクを取り扱いましょう」「生活協同組合の力を發揮して確保して、福祉施設や高齢者施設に届けてほしい」。3月から5月にかけての声です。(4) 外国人留学生在がアルバイトできず、生活困窮が広がっています。5月にはベトナムの留學生や技能実習生が教会に集まって食品を宅急便や車で外国人留學生や日本語学校の生徒に届けています。身近な地域ごとには、当事者の声を聞き、出来ることを考え、力を合わせて問題解決に取り組む人々が沢山いました。このような声や力を生かせるあり方はどうしたら可能なのか。逆に、「効率的な仕組み」「海外への依存」「都市の一極集中」の危うさが現われたのです。

一人ひとりの力（個人の尊厳）を基礎にお

いて、当事者と地域の自己解決力を高めていくことが、生活協同組合にも、社会にも求められています。言い換えれば「効率優先と自己責任の社会」を「人を大事にする、地域分散（循環）型社会」に転換するということです。このような転換は、日本が直面する「人口減少社会」を迎える上でも必要であることが指摘されてきましたが、「新型コロナウイルス」はそれが不可欠であることを明らかにしました。緊急事態宣言が解除され、第二波・第三波に備える今の時期に、そうした方向への道筋をつかみ、地域での協同を重ねていけるような連携を強めたいと考えています。一つの組織の「自己解決力」だけでは限界があります。「自己解決力」と「自己解決力」の間に転換が生じる可能性もあります。どうしたらこれを「地域全体での協同の解決力」にまでひろげ、「社会全体の協同の解決力」に成熟させることができるでしょうか。私は、全国で初めて共同作業所を立ち上げ、これを広げてきたゆたか福祉会と世界の障害者運動にはその力があると思います。ゆたか福祉会もコープあいち（めいぎん生協）も、ともに創立50周年を迎えています。この節目の年の経験が、新しい時代を拓く協同の発展につながることを期待しています。

# 新型コロナウイルス感染症の発生をうけて②

理事・法人本部長 後藤 強

外部から侵入したウイルスを退治するために、私たちの身体には免疫機能が備わっています。しかしその免疫機能が、時々正常な細胞まで攻撃し始めることがあります。それを自己免疫性疾患といい、膠原病などがその代表とされています。コロナに感染された社会もそれを封じ込めようといま必死になっていますが、その過程のなかで、正常な社会活動や人と人との関係性を破壊するような出来事が様々に起きています。

## 1. 感染報道と地域の受けとめ

ゆたかで感染が発生したのは2月末から3月初めでした。ちょうど愛知県内の感染者数が急激に増加しはじめた頃で、夕方のテレビのトップニュースでも連日のように、その日の感染者数と感染経路が報道され、衆目を集めていました。この時期の感染者は、一部のスポーツジムと高齢者デイサービスに集中しており、愛知県知事はこの二つのクラスターを徹底的につぶす対策をとると記者会見で宣言。名古屋市は、3月7日から2週間のあいだ、緑区・南区の全て

の高齢者デイサービスに対して休業要請を出すまでになっていました。

当時、テレビや新聞でいくつかの感染経路図が報道され

ていましたが、一部の報道ではゆたか内の感染者と高齢者デイサービスの感染者が同じ事業所のように描かれていました。そのため、「ゆたかのなかで大量に感染が発生しているのではないか」という誤解が広がったようで、法人内外からの問い合わせが何件ありました。

また、名古屋市の休業要請に従って法人内の高齢者デイサービスを再び休業した際には、利用者のご家族から「感染者が新たに発生していることを、どうして関係者に知らせないのか」との抗議も寄せられました。その時は事情を説明し誤解を解くことができましたが、こうした疑心暗鬼はその当時、広く法人内外にひろがっていたのではないかと思います。



## 2. 感染者(関係者)に対する こころない言動

感染を避けるために、疑いのある関係者の出入りを制限したり遠ざけたりすることは、必要なことです。しかし、そのことに関する丁寧な説明や相互了解のない一方的な行為は、それを向けられた側にとって、とても理不尽で不当な差別としか受けとめられないことがあります。残念ながら、今回の感染でも何人かがこうした言動に接し、心を痛める出来事が発生しました。

以下の事例は、あるグループホームの管理者から報告を頂いたものです。

このホームには、ゆたか内で感染が発生したため、休業した作業所の利用者が1名入居されました。その方は感染していませんが、感染拡大防止のために2週間のあいだ、そのホームで待機して頂くことになったものです。

その待機期間中に、ホーム職員が別の利用者3名と一緒に地域の病院を受診。その際に、利用者の通う作業所で感染が発生したことをクリニック側に伝えたそうです。その翌日、ホームの管理者



が同病院を受診したとき、看護師に「あなたはホーム職員ですよ」と呼び止められ、クリニックの外に出されたうえ、医師から「濃厚接触者がいるホームなのに、昨日は3人も連れてきて、今日もあなたが来て、万が一感染したらどうするのか」と詰め寄られたそうです。

管理者は「その利用者の方は現段階では発症もしていないし、保健センターに『周りの人はどうすればいいか』と確認したが、普通に社会生活を営んでも良いと言われている」と話したそうです。医師からは「非常識だと思わないか。あなたたちみたいなのがいるから感染が治まらないし、このままでは町医師が崩壊する」と言われ、追い返されたということです。

以上は極端な事例かもしれませんが、他にも「ゆたか福祉会の関係者」というだけで、一方的に病院への出入りを制限されたり、ショートステイの利用を断られるなどの事案も発生しました。

### 3. 感染情報の扱いについて

こうした混乱を避けるためには、感染に関する正しい知識と情報、相互理解をすすめるための冷静な努力が、特に重要だと思えます。法人内で感染が発生したとき、その情報をどう周知するかが問われました。

当初は、「広く情報を内外に開示すべきもの」と考えていたのですが、行政からは「公表に伴

う混乱を回避するため、必要最低限の範囲に留めるように」との指示が出されました。このため、職員や当該事業所の関係者（利用者・家族）以外に、具体的事実を周知することをしませんでした。もちろん感染を心配する周囲の問い合わせに対しては、出来るかぎりの事実をお伝えし理解を頂くよう誠実に努めてきたつもりです。

しかし、感染が日に日に拡大し、事業所への問い合わせも増えてくるなか、「事実をどこまで伝えるべきなのか」と悩む重苦しい日々が続くことになりました。また報道でも、名古屋市が感染情報を限定して公開していることが「感染拡大につながっているのではないか」という批判が増えてきていました。

### 4. 何が正しいのか？

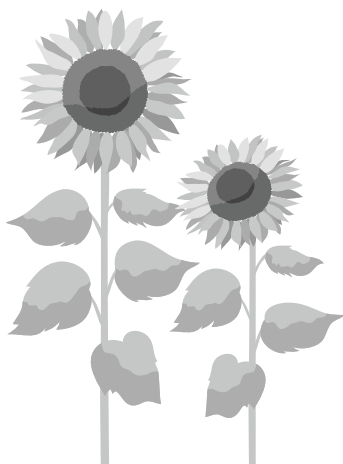
身近なところで感染が発生していても、その情報がないと不安が増幅し、疑心暗鬼になってしまいます。地域の人たちや社会が「より詳しい情報を知りたい」と思うのは当然のことだと思います。

しかし、「感染拡大の防止」という点に限って言うと、当時はすでに、行政や保健所の指導のもとで、事業所の休所や関係者の自宅待機・健康観察の実施など、必要なブロック対策は実施済みでした。ですから、「情報を広く地域に開示することが、感染拡大防止につながる」という

理屈は、あまり説得力あるものとは思えませんでした。

一方で、こうした混乱のなかにあつて、広く関係者や地域に対して事実を公表し説明していくことは、事業所のもつ社会的責任の一つでもあるわけですが。しかし、上記の事案にあるように、感染者やその関係者であることを理由に、常識を外れた非難や排除が拡大してきていることを、ヒシヒシと感じていた時でもあり、もしこの時点で法人名や事業所名が公になれば、感染の影響のない利用者・家族、職員（家族関係者）にまで、様々な影響が及ぶことは想像に難くありませんでした。

「情報の公開」という地域社会に対する責任と、「利用者・家族・職員の生活を守る」という内部に対する責任とが、両立しえない二律背反の関係になっていたら、「今は利用者・家族や職員の通常の生活を守ることに徹するべきではないか」。そんなことを自問自答しながら日々の対応に追われていたことを思い出します。



# 思いを新たに

広報誌ではこれまで、「平和の取り組み」や「きょうされん東海ブロック被災地視察研修」の記事を掲載してきました。新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちから様々な日常を奪い、改めてその影響の大きさを感じているところです。今回は、関係者の皆さんから頂いたメッセージを紹介します。



◀ 2019  
平和行進



2019  
被災地研修▶

## 考え続けたい「今、私たちに出来ること」

2011年3月11日、東北地方を襲った東日本大震災は、東北地方を中心に大きな被害を出しました。

あれから8年が過ぎ、その後も全国各地で災害が多く発生しています。2016年4月熊本地震、2018年6月大阪府北部地震と大きな災害が発生し、そのたびに被災障害者やその家族の状況を知る中で震災の経験が十分に生かされていないもどかしさを感じるようになりました。

政府の「復興・創生期間」が残り1年となり、被災地では住まいや交通網などの整備が完了に近づいています。しかし、東京電力福島第1原子力発電所事故の影響が残る福島県を中心に、現在も約4万7千人が避難を続けています。長引く避難生活で震災関連死は3700人を超えました。政府が復興庁の設置期限を10

年延長するなど、復興への道のりはなお遠い状況です。

きょうされん愛知支部では「つづけよう10年間・あの日をわすれないために」をスローガンに毎年、被災地視察研修を東海ブロックとして実施しています。2020年度も9年目の視察として実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、残念ながら中止する事になりました。

同時に来年が10年目最後の視察となる予定でしたが、2年間視察を延長する事にしました。9年目を迎えても、まだ生活再建の目途が立たない方が多くいる現実を忘れずに「今、私たちに出来る事」を考え続けていきたいと思えます。

ライフサポートゆたか / きょうされん愛知支部事務局長  
今治 信一郎

## 枠にとらわれず 前を向いて

ゆたか作業所 吉田 博

作業所でも数々の取り組みの開催を見合わせています。ボランティアの皆さんに支えていただいている生花教室やうたごえ、喫茶南風などに加え、お出かけも自粛となっています。地域とつながる平和行進や平和盆踊り

も中止となってしまいましたが、新しい生活様式の中で今できることを、今までの枠にとらわれず仲間たちと考え、前を向いて取り組んで行きたいと考えています。

### コープあいち様からのメッセージ

新型コロナウイルスの影響により、コープあいちも様々な活動への参加が困難となっています。私たちは「平和とよりよい生活のために」という理念のもと、平和活動に取り組んでいます。例年6月に取り組んでいる平和行進に今年は歩くことができませんでしたが、組合員の皆さんのご自宅でできる平和の取り組みとして、「平和の川柳」や「平和のぬりえ」の募集を行いました。

日本は唯一の被爆国であり、悲劇を繰り返さないためにも、平和に対する想いを発すること、一人でも多く取り組みに参加していただくことが大切だと思っています。今後も、戦争も核兵器もない安心してらせる社会をめざし、協同し平和活動に取り組んでいきます。

コープあいち港センター 鈴木 拓摩

# 「あいち在宅福祉サービス事業者懇談会」オンライン学習会に参加して テーマ「新型コロナウイルス感染防止と職場での努力 ～高齢・障害（医療）分野の実践から学ぶ～」

## はじめに

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、高齢・障害・医療の各事業所では、今後も日々緊張した努力が続いています。このような中、愛知在宅福祉サービス事業者懇談会（略称 在宅懇）が主催したオンライン学習会に事務局として参加しました。

当日の報告は3本。まだ新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大予防策の科学的根拠もわからない時期に、各分野が奮闘したこと、情報共有のあり方、地域との関わり、感染症が起す心理的な変化などについて語られました。

## 高齢分野からの報告

名古屋キリスト教社会館

「デイサービス友」からは、「名古屋市による『南区・緑区デイサービスへの休業要請』をうけて」というテーマで報告がされました。休業をせず、感染対策を徹底しながら行った取り組みや、重度高齢者でも自宅で安心して生活を送ることができる命に直結した社会資源にも関わらず、事業継続に対しての賛否両論や、デイサービスに対する無理解、誤解への対応が行われたことが語られました。

## 障害分野からの報告

ゆたか福祉会

テーマは「障害及び高齢分野における感染防止対策の現状とこれまでにみえてきたこと」。感染発生時を振り返り、仲間3名の感染者のうち1名が重症化し、大切な命が消えてしまったこと。またその方たちを支援してきた職員の繋がりから、100名近くの自宅待機者が発生したことが話されました。

特に印象的だったのは、「自己免疫性疾患は、コロナに感染された社会もまた同様に、それを封じ込めようとする過程のなかで、正常な社会活動や人との関係性の破壊をもたらしているように思えない」と語られたことです。

## 医療分野からの報告

南医療生協病院

コロナ感染の定義を決めて対応し、過剰な不安や対応に陥ることがないようにしたことや、その後「院内感染拡大をゼロにした」という報告がありました。また医療機関も社会から理不尽な差別を受けましたが、ホームページから正しい情報提供や行動を行い、「お互いを守ることに繋がった」と話されました。

今回の学習会は「オンライン学習会」としてZOOMを活用したことから、関東や九州の法人にもご参加いただくことができました。人の流れが止まっている今、こうした形での学習会に新たな可能性を感じ、また流行の先駆けの実践に多くの気づきがありました。

岡山 加代子



## あいち在宅福祉サービス事業者懇談会（略称 在宅懇）とは

愛知県における介護保険の在宅サービスの事業運営について、様々な問題を共有し、その解決のために研鑽・学習を行いながら、私たちの意見を社会に発信していく共同の場として2007年9月、40団体、27名の個人会員で設立されました。

これまで、お泊りデイや外国人労働者の問題、地域包括ケアシステムによる総合事業など様々な施策について、行政をはじめ関係機関に懇談・政策提言を行い、要望を出しています。



# コロナの中でも工夫して

Webを使って 研修再開  
 ↳ 新たな試みのなかで ↳

## 条件を創り出しながら

今回ご紹介する2019年度及び2020年度正規採用職員研修は、本来であれば3月に対面式で行われるものでした。

4月、5月と再延期、再々延期で対応してきましたが、初めて参加する職員から「同期が誰かもわからない」「早く顔を会わせたい」という声が聞かれたことが、Web活用に踏み切るきっかけとなりました。何よりも「つながる安心感を大事にしたい」と思っていたからです。また4月より、機関会議のほとんどをWebで行っている中で、ネット環境の整備も含め、管理職自身が経験を積み、他の職員へ援助ができるようになったことも要因となりました。

## 経験と教訓を次に活かして

最初に行ったのは2020年度正規採用職員「初任者研修」でした。開始30分前には「視聴確認作業」ができるようにし、19名の皆さんのほとんどが定刻までは、何とか画面上で顔を会わせることができました。

事前レポートの報告では、その人を身近に感じることができるよう、広報誌に掲載した「職員紹介」の資料を手元に置いて参加してもらいました。休憩を取りながら3時間半程の研修でしたが、理事長講義の録画を盛り込みバタバタしたことや、やはり全体としては

「二方通行」の感がありました。

この教訓を活かし2回目の研修では、すべての報告をその所要時間に応じて時間配分し、質問や感想タイムを設けたり、演習を取り入れたりと改善を行いました。1回目と比べると運営側も参加者も少し慣れてきたこともありますが、疲労感が少なく研修内容の充実につながったと思います。

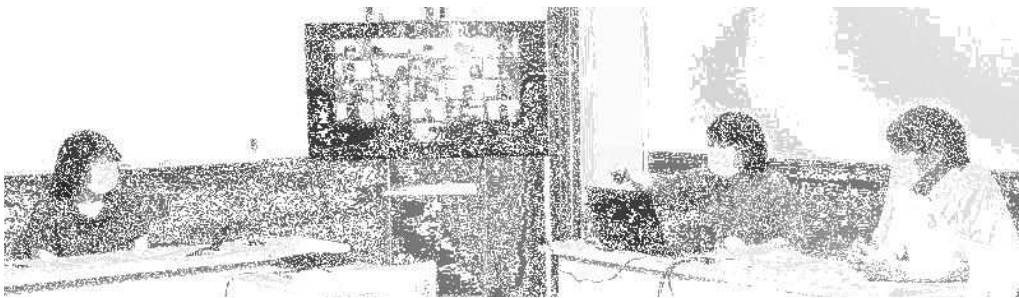
## Web上でグループワーク

2019年度正規採用職員「まとめ」研修の特徴は、実践発表「今、取り組んでいること」をグループに分かれるという機能（ブレイクアウトルーム）を活用したことです。また100分程度の時間枠をどのように進行するのか、事後レポートを読み込みながら作成した資料を活用し、スパーバイザーの皆さんとイメージの共有化を行ったことも大きな財産となりました。

Zoomの活用もブレイクアウトルームの経験も初めてのスパーバイザーの皆さんでしたが、モチベーション高く取り組んでいただいたことに感謝です。

この間の研修には、ホストとして事務長にも参加してもらい、回を重ねるごとに様々な改善や工夫を行ってきました。組織と「チーム力」が試される日々です。

研修部長 向幸子



### 研修内容

#### 2020年度正規採用職員「初任者研修」(6/4、7/2)

- ・1回目「自己紹介とゆたか福祉会で働く思い」の報告と交流 / 理事長講義「50周年を迎えたゆたか福祉会の歴史と経営理念」
- ・2回目 アイスブレイク / 「日々の支援の基本について」(障害を持つ方との関わりの中で大切にしたいこと・ゆたか福祉会と出会って～今思うこと、職員の皆さんに期待すること～)

#### 2019年度正規採用職員「まとめ」研修(7/17)

- ・研修のねらいと今後に向けて(P.P報告) / 実践発表「今、取り組んでいること」(ブレイクアウトルーム) / 全体発表 / 「2年目を迎える皆さんへ伝えたいこと」(理事長)



topix

みのり  
共同作業所

# 新型コロナウイルス 感染予防ポスター作製

## ～みんなですべて～

新型コロナウイルスが流行する中、作業所全体と個人でも対策が必要となっています。みのり共同作業所でも、昼食時間を時間差でスタートする等、感染予防対策を行っています。

一人ひとりが取り組む事としては、手洗い消毒やマスクの着用です。マスクの着用については出来る人もいれば、なかなか難しい人もいます。そこで皆で話し合った結果、生活部会からなかまに声を掛け、ポスターを作る事になりました。

### 実績を活かして

「ウエスワークス班」には、絵の得意な内山さんがみえます。昨年度もインフルエンザ感染予防の為、手洗いうがい啓発ポスターを描

いて頂きました。今でも食堂をはじめ、各班の手洗い場に貼られており、手を洗うときは必ず目に留まるポスターです。そんな内山さんに「今回も声を掛けてみよう」ということになりました。

お話をすると心よく引き受けてくださり、「どんな感じにする?」と一緒に話し合いました。様々なイラスト見本からイメージを膨らませ、とてもカラフルなオリジナルのポスターが出来上がりました。

緊急事態宣言が出され、外出自粛となった5月頃、内山さんから「休日出出できないし、ポスター描くから課題出して」と積極的な言葉がありました。また班の打ち合わせ時間にも、皆に「ポスター描いてくるから!」と自信をもって報告をされていました。

### ポスター作製から 広がった取り組み

マスク着用を促すポスターには、「マスクで予防しっかりと手も洗おう!」、緊急事態宣言が出されてからは「新型コロナウイルス対策!」とタイトルが書かれています。このポスターは、玄関や食堂、階段の踊り場などに掲示しています。

掲示後には、マスクをするなかが増えるという成果が見られました。また内山さん自身も、なかまや職員、ボランティアさんや実習生に、自作のポスターを説明する機会を意識的に持たれ、積極的にマスクの着用や、手洗いうがい、消毒の声掛けをされています。今ではなかま達の間で、「マスクした方がいいよ」と声を掛け合う場面も見られるようになりました。

今回のポスター作製にあたっては、「新型コロナウイルスが落ち着いたら、また大好きな映画やゲームセンターに行きたい」と話していた内山さん。皆の健康のために、このポスターに思いを込めて描かれました。

新型コロナウイルスに対しては、

感染の予防やソーシャルディスタンスなど、これまでの生活様式が変わりつつあります。このポスターを見ながら、一人ひとりがマスクの着用や手洗い消毒などを進め、新型コロナウイルスに負けないよう、皆で元気に過ごしていきたいと思えます。

齊藤 由香



## 表紙の作者紹介

「夏のセミ取り」  
ゆたか生活支援事業所なるお  
中野稚也さん

中野さんはこれまでも何度か、季節の風物詩をモチーフにした絵を描かれて応募されています。今回が2回目の登場です。

「夏らしい光景を描きたい」との思いから、ご本人がセミ取りをしている様子を休日等も利用しながら、ホームで丁寧に描かれました。

現在はスーパーで一般就労されている中野さん。職場の方からも、「中野さんの描いた絵が(広報に)採用されたら見せてほしい」と話があったそうです。作品の応募にも、意欲的に取り組まれていました。



### お詫びと訂正

ゆたか福祉会広報No. 449(2020年6月10日号)に掲載しました2019年度ゆたか福祉会事業報告において、間違いがありました。P3とP11に労災事故集計グラフが掲載されていますが、P11のグラフが正しいデータです。P3のデータは誤りでした。お詫びして訂正いたします。

### 広報・451号

2020年8月号(2020年8月10日発行)  
定価1部100円  
法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます  
発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会  
印刷 / 株式会社東海共同印刷



6月

日誌

- 4日(木) 2020年度正規採用職員研修
  - 11日(木) 広報・ホームページ編集委員会
  - 13日(土) 評議員会
  - 15日(月) 事業運営推進会議
  - 24日(水) 所長会議
  - 27日(土) 強度行動障害者支援者養成講座  
「基礎研修」~28日
  - 29日(月) 研修部会議
- ※評議員会、強度行動障害者支援者養成講座  
以外はWeb対応

## 秋の行事

- あかつきまつり
- 大清水福祉センターまつり
- 地域ふれあい広場
- 福祉村キラリンまつり
- 緑区区民まつり
- 南区障害者と区民のふれあい  
さわやかウォーク
- 南区区民まつり

今年度はすべて  
中止となっています。

法人協会の会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協会の会費 = 年間1口 6,000円、  
賛助会員(個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- ・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

一般寄附(6・7月)

金桶貴美代 数納 幸子 石黒運送(株)

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覽)

(6月21日～7月14日手続き分) 順不同敬称略

|       |       |       |       |       |         |                |
|-------|-------|-------|-------|-------|---------|----------------|
| 井出 由紀 | 稲垣 孝雄 | 岩本 榮子 | 浅田 悦男 | 篠原美津江 | 中武 繁治   | 東洋病院           |
| 鬼頭 宏  | 発知 功治 | 笠原 悦雄 | 石川さち子 | 堀 鉦三  | 数納 幸子   | 松本歯科           |
| 杉浦 達男 | 小田切龍三 | 山口 信二 | 浅野実千代 | 池田 栄一 | 渡辺 正春   | 近藤産興(株)        |
| 山田 国明 | 鈴木 隆介 | 金桶貴美代 | 飯田 立輝 | 山崎 恭裕 | 村田 昌史   | 社会福祉法人         |
| 田畑 博  | 川上 雅也 | 中西 和子 | 中村美津江 | 小林 美枝 | 神村 孝子   | あずま福祉会 おおぞら作業所 |
| 生駒 悦子 | 清水 悦子 | 佐藤 博宣 | 神谷 恵子 | 原 史江  | 堀 武夫    | (福)コスモス福祉会     |
| 西尾 明  | 稲垣 雅代 | 鈴木 徳彦 | 藤田 有紀 | 加藤 信子 | 中園 加奈   | 株式会社丸菱         |
| 堀江まる子 | 前田 勝彦 | 渡邊 洋子 | 梶田まゆみ | 村松 敦子 | らいぶ施設長  | 中日本ジューキ(株)     |
| 一柳 裕子 | 住友 陽子 | 糠谷 彰洋 | 山田 清文 | 鈴木 やす | 井出 信男   | (株)ワイクリード      |
| 浅野 清高 | 浅海 正義 | 森 智明  | 千葉 恵子 | 片山美恵子 | (有)坪井電機 | 御崎コンベヤー(株)     |
| 戸塚やよい | 高橋香与子 | 渡邊 紘三 | 藤田 秋雄 | 後田 剛  | 坪井 賢三   | (株)東海共同印刷      |
| 塚本 道夫 | 高橋 利浩 | 渡邊喜和枝 | 藤田 明美 | 浅海 嘉夫 | 社会福祉法人  | おもちゃ図書館びっころ    |
| 土井ちづ子 | 近藤 直子 | 村井智恵子 | 奥谷さと子 | 新城 紘行 | 社会福祉法人  | (株)丸八ヒロタ       |
| 今西 正次 | 山崎 辰雄 | 宇野 廣昭 | 市川 恵子 | 新城 照美 | こぶしの会   | 大橋昭人事務所        |
| 岡下 豊子 | 横井 雅幸 | 若尾 文子 | 布施 一三 | 今井百合子 | 高橋 温美   | (株)赤門ウイレックス    |
| 飯田 輝男 | 今井 信彦 | 森 重徳  | 水谷 暎子 | 小西 智江 | 内田紙店    | 桜軽金属工業(株)      |
| 伊藤 一政 | 神田 清一 | 平國 哲  | 吉野多賀子 | 横井 脩  | 港北幼稚園   | (株)毎日リネンサプライ   |
| 清水 晶子 | 岡田多津子 | 杉浦 博  | 高森 裕司 | 阪田 正子 | 壽工業(株)  | (有)田口モータース     |
| 尾関 啓子 | 飯田 章代 | 毛利 登  | 篠原 直人 | 近藤左千夫 | 石黒運送(株) |                |

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました





# その人らしく働く 暮らす

Vol.88

## 仲間

「わたしなりの伝え方で、みんなを明るく」

ふれあい共同作業所 安達 春菜さん



2016年4月、

南養護学校を卒業後、入所された安達さん。ふれあいを

選ばれたきっかけは、高等部3年生の時の実習で、玄関からすんなり作業所に入れたことでした。

入所当時は、作業所に着いてもなかなか玄関から動けなかったり、ドライブでは車から降りることができないなどの姿もありました。少しずつ作業所の生活にも慣れ、今年で5年目を迎えました。仕事は治具を使っての軍手の作業が中心です。

午後からは、手形アートなどの創作活動やドライブ、散歩、スノーブレンなどの活動に参加。最近の創作活動では、暑中見舞い用の葉書づくりで、紙すきにも取り組みました。散歩やドライブに出かける時は、いつもより靴の履き替えも早く、職員の声掛けで見通しを持って動ける方だといっ

ことも分かつてきました。

強みは、自分の気持ちを表情やジェスチャーで伝えることができることです。特徴を掴むのがとても上手で、例えば職員を「メガネ」や「ヒゲ」などのジェスチャーで表してくれます。最近、新たな一面を発見しました。それは、職員が歌っているのに合わせて、歌える部分を一緒に歌ってくれることです。

安達さんのジェスチャーや歌は、その場の空気や周りの人を明るくしてくれます。これからも、新たな一面が見られることを楽しみにしていきたいです。

中村 美憂



5双ずつ並べて

## 職員

「『想いを叶えるために』可能性を探して」

ゆたか生活支援事業所かさでら 小川 大也



名古屋の南区

に位置する「事業所かさでら」は、3つのグルー

プホームを運営しています。僕はその中の「第1かさでらホーム（かさでらホーム1階）の仲間の担当をさせていただいています。

仲間の皆さんはとても個性豊かで、「想い」をはっきりとぶつけて来てくださる方ばかりです。そのため、「想い」を汲み取ることは比較的容易なのですが、実現するために乗り越えなければいけない壁がたくさんあることを痛感しています。

それは年齢や体調の問題であったり、障がい特性の問題であったりと様々で、過去5年間働く中で叶えてあげられなかった「想い」もたくさんあります。だからこそ今は引き出しを多く持つて、少しでも多く叶えてあげることができるといっように心掛けて支援にあたっています。

「事業所かさでら」利用の仲間

は、定住者（18名）・サテライト型（1名）・体験型（約18名）の約37名です。1つの事業所だけでもこれだけの「想い」や「価値観」があり、ご家族や職員も入れると凄い数だと改めて驚きます。

ゆたか福祉会は大きな法人なので、これからさらにもっともっと多くの人に出会って、出会った分だけの「想い」に触れることができるのではないかとワクワクするばかりです！

たくさんの方に、「こんな考え方もあるよ！」「こんなことがあってね！」と教えていただけるのを楽しみにしています！！



ていねいに手洗いと消毒